

（盛岡タイムス）

この記事は盛岡タイムス社の許諾を得て転載しています。



趣向凝らした企画満載

盛岡地域の高校の文化祭ピーク

二高も4年ぶりに一般公開

盛岡地域の高校は、26日の週末にかけて文化祭のピークを迎えている。盛岡市上ノ橋町の盛岡二高（鈴木広樹校長、生徒551人）の「二高祭」は25日に校内発表があり、生徒は4年ぶりの一般公開を前に、文化部の発表や趣向を凝らした各クラスの企画を楽しん

だ。同校など多くの生徒から寄せられた中か立、私立高が26日に文化祭を開き、保護者や一般に公開。新型コロナ前の文化祭の一体感やにきわいが戻ってきた。そっだ。

今年「爛漫(らんまん)は4年ぶりの一般公開を前に、文化部の発表と笑顔の花」。同祭実行委員会が募集し、生

表と展示部門を同時に開催するのは4年ぶり。3年生の飲食販売も再開し、生徒たちは初めての模擬店を楽しんだり、工夫を凝らした衣装でお化け屋敷や手作りゲームなどのクラス企画に客を呼び込んでいた。バルーンを使った手作りのフォトスポットも人気を集めていた。

生徒の人気を集めている手作りのフォトスポット
みんなが笑顔になる文化祭になるといいと気持ちを入める。

同校の文化祭は前年度までステージ発表と展示部門を分け、県民会館でステージ発表を行ったり感染症対策を講じてきた。

岩崎朱里副委員長（3年）は「二高の文化の伝統を感じるとともに、多くのグループが参加している有志クラスの多彩な発表など新しい文化も感じた」とつなぐしていた。

26日の一般公開（午前10時～午後2時半）も応援委員会、なぎなた部、音楽部、箏曲部、マンドリン・ギター部など特色ある部の発表があるほか、PTA企画もある。入場の際に制限はないが、校内を移動時など熱中症に気を付けるよう呼び掛けている。駐車場はない。